

演習 I 治療的モードの自己評価

Self-Assessment of Modes Questionnaire – Version II より 一部改変

キャサリンさんは 19 歳の学生でダンスをしています。ある日、彼女は自動車事故に遭い低レベルの脊髄損傷となり、あなたと作業療法に取り組み 2 ヶ月が経過しました。現時点では、彼女がどの程度下半身を動かすことができるようになるか、どの程度歩けるようになるかについては不明です。彼女はあなたのアドバイスに従いながら、毎回の作業療法に非常に意欲的に取り組んでいました。

そんなある日の作業療法場面で、彼女の様子がいつもと違いました。彼女は深く悲しそうで、自分が受けている治療の価値について質問し始め、あなたに『どんな治療を受けたとしても再び踊ることは決してできないと気づいたんです。』と話しました。

【問 1】

このような状況の際、あなただったらどのような対応を行いますか？

正解はありませんので、A～F のうち自分の対応に近いものを 1 つ選んでください。()

【問 2】

A～F の対応はそれぞれ治療的モードのどれになるでしょうか？〔擁護する、協業する、共感する、励ます、指示する、解決する〕から選び()に記入してください。

A) キャサリンに、彼女のような怪我をした人やさまざまな障害を持つ人が所属している地元のダンスグループについて紹介します。そして彼女の気持ちの整理ができた頃に、インストラクターと連絡を取るよう彼女を後押しします。

()

B) 『あなたの率直な意見を教えてもらうことも大切です』とキャサリンに伝えます。そして、今後の作業療法をどのように進めるのかについて話し合います。

()

C) ダンスや運動、またはそれ以外の方法でキャサリンが自己表現を行うことができないか、現実的なところで代償的な方法も含めて本人が考えることができるように促しつつ検討をしていきます。

()

D) “再び踊ることは決してできない” という考えと戦っていることをあなたはサポートできるとキャサリンに伝えます。そして、彼女の考えや不安を受け止め理解を深めようとします。

()

E) 治療目標と期待される結果についてキャサリンと共に再確認し、否定的になっている考えの軌道修正を行います。目標を達成するために引き続き努力をしていくことが重要であることを説明します。

()

F) キャサリンが今までと同じように踊ることはできないとしても、何かしらの形で将来再び踊ることができることを予測していることや彼女に踊ることができる可能性を伝えます。

()